

才

色

兼

備

地域や患者に貢献し、多忙を極める女性院長は、仕事とプライベートをどのように両立しているのか。また、女性ならではの視点はどうかマネジメントに活かしているのか。女性院長の思いと生き方を探る。

大森真帆麻布十番クリニック 院長

大森真帆

Omori Maho



美と健康の実現のため、小さな改善から患者を支える

透析患者を減らしたい——。長年透析専門医として従事していた大森真帆院長は、このことを使命として、2015年9月に開業。

総合内科専門医も取得し、生活習慣病の重症化予防を中心にかぜなどの一般疾患も広く診ている。〆患者を第一に考えることをモットーに、いつも笑顔で対応するのを信条としている。

大森院長は、「生活習慣病の患者さんは、病気と一生のつき合いになります。そんな患者さんを支える医師が無愛想だと、治療へのモチベーションは上がらないでしょう」と語

る。治療への意欲を高めるために大森院長が日頃から患者へ伝えていることがある。〆美と健康はリンクしていることだ。

「美と健康は地続きで、きれいになりたい、やせたいと言っても、血管や臓器はポロポロ……では難しいでしょう。健康になれるように生活習慣の改善に取り組むことが、最終的には健康だけではなく美の実現にもつながります」と、女性ならではの視点だ。

もつとも、ハードルが高いと継続していかない。そこでたとえば、週1回だけ休肝日を設けるなど、まずは初歩的なことから始め、

小さな成功を積み上げていく。小さなことでも成功は、次の改善へのモチベーションにつながるからだ。大森院長自身も、こまめな運動や定期的な検査など、忙しいなかでも自らの生活習慣の管理を心がけている。院長自らが美と健康を両立している姿は、患者にとっても説得力があるだろう。

最後に大森院長は「院名に掲げた名前は、私をかりつけ医と認めてくれている患者さんへの『私が支えます』という意思表示。これからも患者さんが安心して通える診療所を目指していきたいです」と語る。

Q 医師を志したきっかけは何ですか？

A. 最初は数学者や物理学者になりたいと思っていましたが、最終的に手に職をつけて仕事をしようと思い、医師になることを決めました。ただ、「医師になるからにはすべての人を救いたい」と常に思っていて、そういう意味では向いていたのではないかと今では思っています。

Q 日々の生活のなかで、ルーチンがありますか？

A. お酒を飲むのが大好きなので、その分スクワットなどは毎日欠かさずやっています。美と健康は一心同体で、身体の内側がぼろぼろでは、美も保つことはできません。きれいになろうと思うと、自然と内面に気をつけるようになるはずですよ。

Q 人生最期の日、どんなものが食べたいですか？

A. 食事ではないのですが、「ラフロイグ」といった独特で強い香りのウイスキーが大好きで、最期なら上質な年代物をトワイヌアップ（ウイスキーと水を1：1で割る飲み方）で飲んでいると思います（笑）

Q プライベートはどのように過ごしていますか？

A. お酒を飲んだり、愛犬と遊んだりしています。休日はゴルフやサーフィンなどいろいろとやっていて、充実していると思います。良い仕事をするためには、プライベートも充実させてストレスを溜めないようにすることが大切だと思います。

Q 印象的だった言葉は何ですか？

A. 知り合いの女性社長がある表彰式の挨拶で、普通は女性を立てて「Ladies and Gentlemen」と言うところを、わざと「Gentlemen and Ladies」を言いました。「女性だから」「男性だから」というものはないんだという意図で仰ったこの言葉は、1人の医師として患者と向き合いたい私の思いを象徴していると思います。

大森真帆麻布十番クリニック
東京都港区麻布十番1-5-9 高橋ビル201
URL: <http://www.omori-ajc.com/>